

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	障がい児通所支援事業所 おくえつザウルス			
○保護者評価実施期間	2025年12月15日 ~ 2026年1月7日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	21	(回答者数)	15
○従業者評価実施期間	2026年1月16日 ~ 2026年1月20日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年1月20日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	卒業後を見据えた就労・自立支援の充実	法人としての強みを活かし、法人内の就労継続支援B型での就労体験や、併設するカフェでの職業体験を実施しています。また、自事業所での活動（カフェやザウルス商店など）を通してさまざまな仕事に触れる機会を設け、仕事の選好を知るきっかけづくりや、働くことと報酬が結び付く仕組みを取り入れることで、働く意欲の育成につなげています。さらに、手順書を活用しながら掃除・洗濯・炊飯などの生活スキルに取り組む機会を設け、卒業後の自立に向けて、できることを少しずつ増やしていくよう支援しています。	社会資源の情報収集を継続的に行い、卒業後の移行先につながる活動の企画・実施を進めています。また、学校や他事業所、相談支援専門員との連携を強化し、就労に向けた支援をより充実させていきます。
2	学校併設による円滑な連携体制と学校資源を活かした豊かな活動機会	学校併設の強みを活かし、日々の情報共有が円滑に行える体制が整っています。教職員との密な連携により、こどもの学校での様子や変化を迅速に把握し、支援へ反映しています。また、学校の体育館などの施設を活用することで、広い空間での運動活動が可能となり、長期休暇中には空き教室を借りて自事業所内だけでは実施が難しい活動にも取り組めています。さらに、来所時には子どもの様子を丁寧に伺い、上手くいった支援を職員間で共有するなど、より良い支援につなげるための工夫を意識的に行っています。	高等部の教職員とは、こどもと一緒に来所しないこともあります。情報共有が不足しがちです。今後はより積極的に連携を図り、活動に教職員を招くなど、交流の機会を増やしていきます。
3	豊富な活動内容	毎月活動会議を実施し、発達支援の5領域（「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」）に沿った多様な活動を企画・実施しています。また、他の社会資源も活用し、自事業所だけでは実施が難しい活動にも取り組むとともに、法人内のカเฟでの職業体験など、社会とのつながりを意識した体験活動にも取り組んでいます。	引き続き、他の社会資源も活用しながら、幅広い活動を提供できるよう取り組んでいきます。また、次年度からは「リクエスト活動」として、こどもたちが希望する活動を確認し、実施する取り組みも計画しています。さらに、PT（理学療法士）の専門性を活かした活動プログラムの企画・立案を進め、活動の幅を一層広げていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域のこどもや地域住民との交流機会の不足	日々の支援では本人支援に重点を置いていることから、保護者やこどもの地域交流に関するニーズを把握する機会が十分に確保できていません。また、地域支援・地域連携に関する情報収集や取り組みが不足しており、地域との交流機会の創出が進みにくい状況があります。	まずは、現在つながりのあるボランティアの方々や利用児のご家族など、身近な地域の方行事や活動に招待することから始めていきます。
2	保護者・きょうだいへの支援機会の不足	保護者座談会は年1回の開催にとどまり、内容や保護者の就労状況により全員が参加しにくい状況があるほか、きょうだいへの取り組みについてこれまで実施できていません。	保護者のご意見を伺いながら、参加しやすい保護者行事の検討を進めます。また、保護者やきょうだいへの支援に関する情報収集を行い、ニーズがある場合には適切な情報提供ができるよう取り組んでいきます。
3	非常災害時の対応に関する情報が保護者に十分伝わっていない	避難訓練や救急対応訓練は安全計画に基づき定期的に実施しているものの、実施時間が放課後や振替休日であるため、長期休暇時のみ利用される方は参加できず、訓練の様子が伝わりにくい状況がある	今後は長期休暇中にも避難訓練の実施を検討します。また、「おくえつザウルスだより」に訓練の様子や内容を掲載し、引き続き周知を図っていきます。